

# 水温情報

## 第2号

沖縄県水産試験場 1999年2月発行

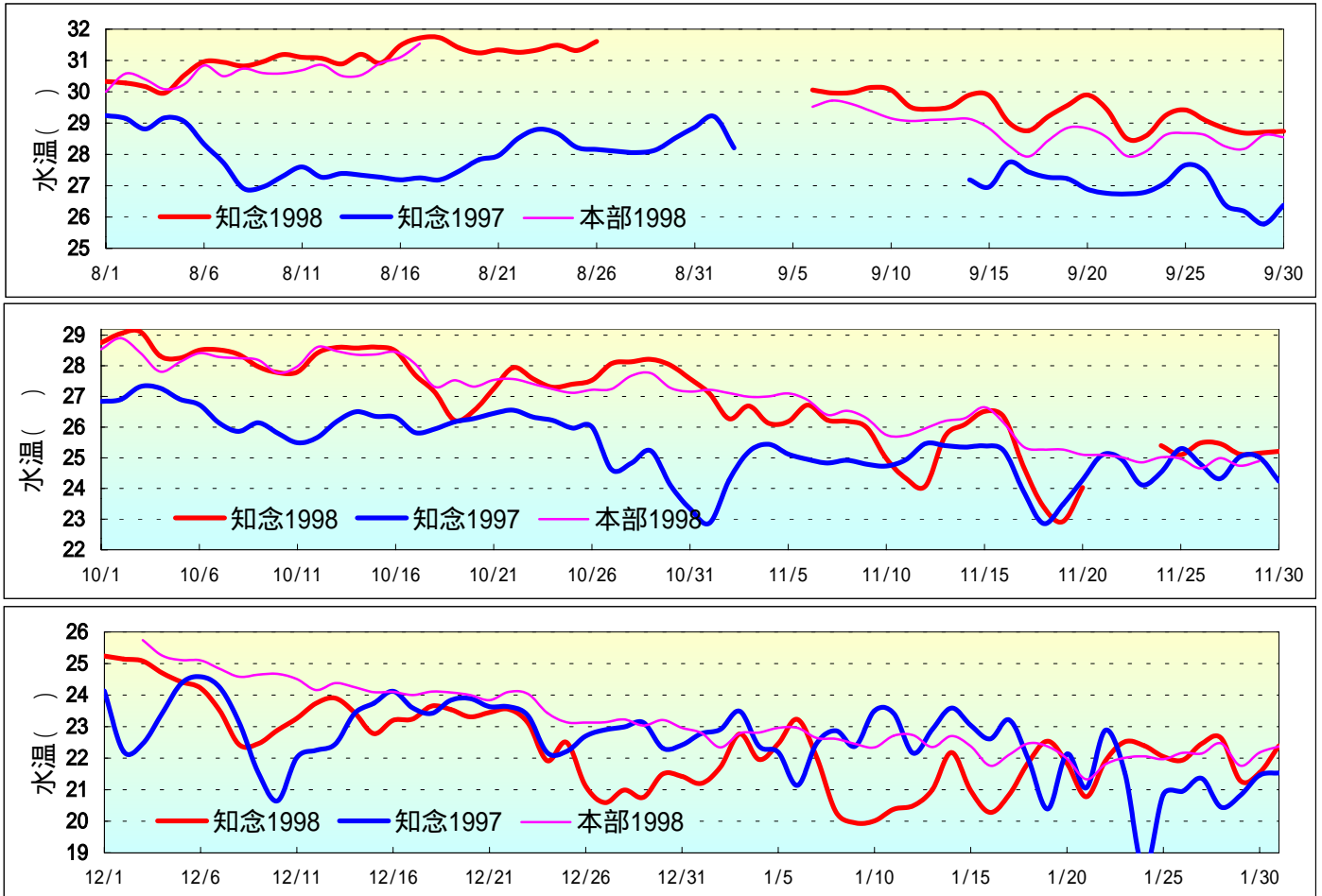
901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号

電話 098-994-3593・3597

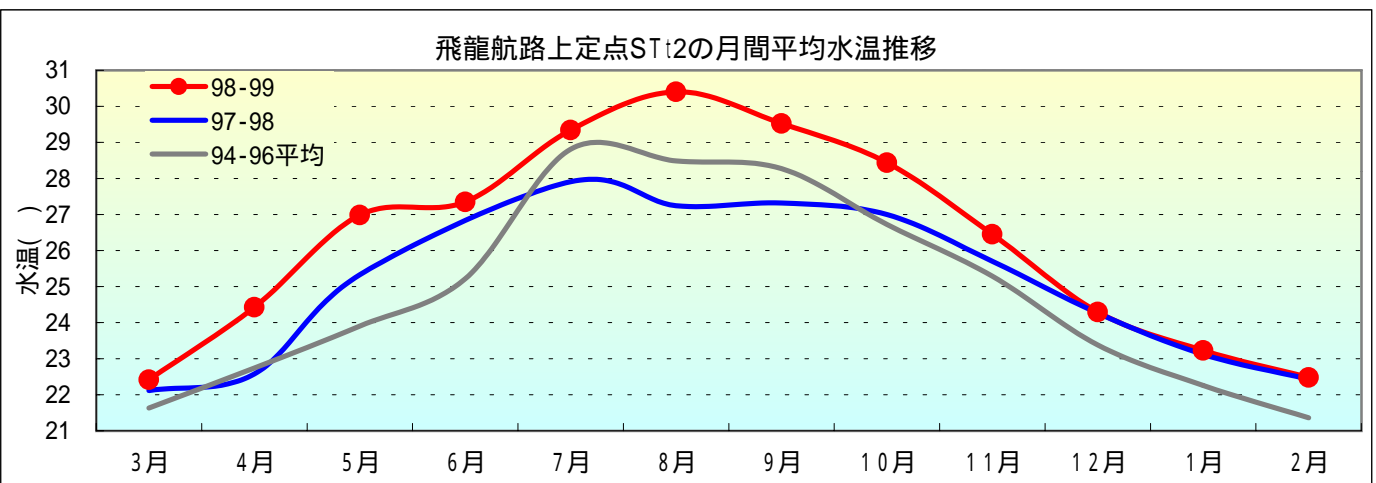
ファクシミリ 098-995-2357

ホームページ <http://www.fish.pref.okinawa.jp>

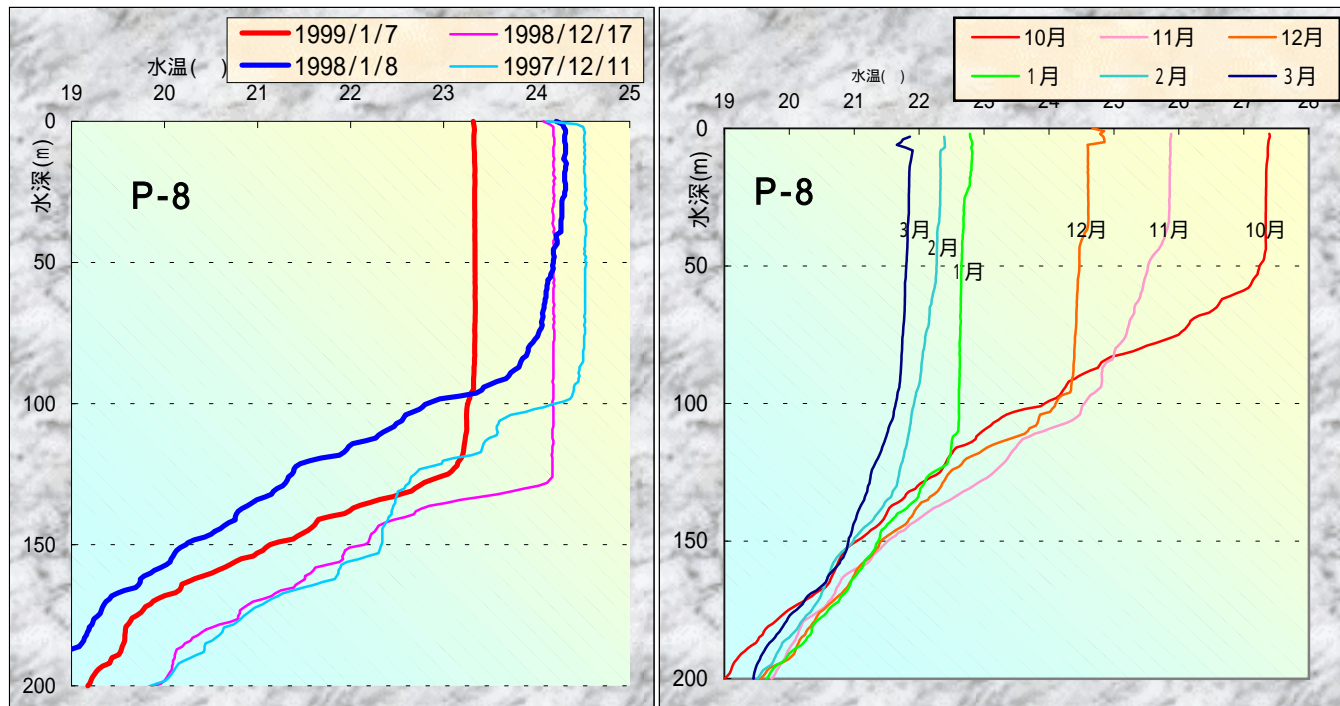
知念地先(水深約4m)と本部(水納島、水深約2m)のモズク養殖場にメモリー式の水温計を設置し、20分に1回水温を測定した。下の図は、1998年8月～1999年1月の結果で、比較のため知念地先の1997年8月～1998年1月の結果も示した。1998年8月は30以上の高水温が続き、沖縄各地でサンゴの白化現象が報告された。その後も高水温の傾向は続き、11月中旬になって水温は前年並みになった。知念地先は、本部と比較して水温の変動が激しい傾向がある。



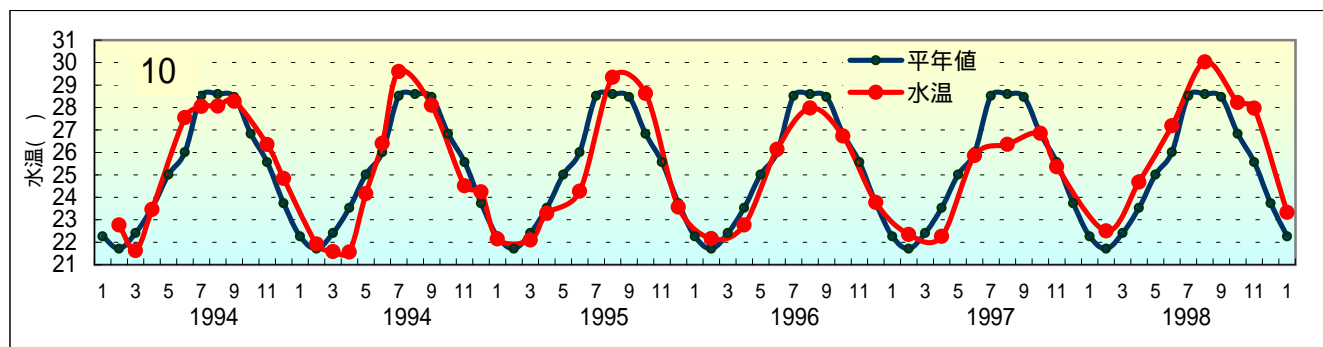
沖縄 - 先島航路フェリー飛龍(3及び21、有村産業)で航路上の水温(水深6m)を測定している。このうち沖縄島南西の測点(STt2)の月間平均水温を下図に示す。1998年3月～1999年2月(2月は中旬までの平均)の水温は、その前年や1994-1996年の平均と比べて高めに推移した。12月、1月、2月は前年とほぼ同様に推移しているが、前年も平年より1ほど高かったため、アサヤイトモズク養殖への影響が心配される。



下の左の図は、沖縄島南観測点(P-8)における1997-1999年の12月と1月の鉛直水温測定結果である。1998年12月や1999年1月は、前年と比較して、水深100mくらいまでは水温が0.5-1 ほど低かった。下の右の図は、P-8における過去5年間の測定結果を月別に平均したものである。10月以降、海面が冷やされるため、混合層(海水が混ざって海面と同じ程度の水温となる層)の厚さが増してくる。200m層の水温は、年間をどうして19-20 程度である。



下の図は、沖縄島南東の5つの観測点における水深10m層の水温と、その平年値を比較したものである。1998年8月以降、平年値より1 程度高い水温が続いている。



下の2つの図は、沖縄島南東観測点の100m, 200m, 500m, 600m層の水温について、1998年3月～1999年2月と過去5年を比較したものである。パヤオでの大型キハダの遊泳中心層である100mは、1998年8-10月は過去より高めだったが、その後は過去と同程度となった。ソデイカの漁獲の中心層となる500mは、11-13 で変動しているが、1999年の1月は過去より若干高かった。

